



秋～早春播き

ハウレンソウ品種のご紹介

雪印種苗(株) 北海道研究農場

作物研究室 大橋 真信

1 はじめに

ハウレンソウは緑黄色野菜の代表としてさまざまな料理に用いられ、年間を通して安定した需要があります。国内におけるハウレンソウ栽培は、微減傾向ながら、作付面積25,000ha以上、収穫量30万t以上に及びます(図1)。近年は雨よけハウス等の資材を利用した周年栽培産地も増加してきましたが、ハウレンソウは本来低温を好む作物であるため、秋～早春にかけての低温期が最も作りやすく、年間の栽培面積の大半を占めています。また、この時期には露地栽培、べたがけやトンネルなどの被覆資材を利用した栽培、ハウス栽培など作型も多様化しています(写真1,2)。

ハウレンソウの品種は、古くから収量性や晩抽性、耐病性などの栽培適応性を中心に改良されてきましたが、近年は収穫物の外観(品質)や収穫の作業性などについても改良が進み、地域・作型に応じて多くの品種が利用されています。

当社では「フィーリング125」「バルタン」「アールフォー」など秋～早春播きに適した品種を販売し、各地で好評頂いております。今回はそれぞれ

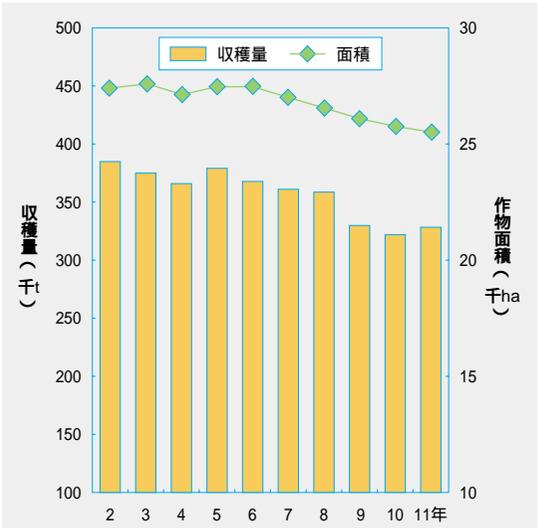


図1 全国年次別ハウレンソウ作付面積・収穫量の推移

の品種の特性と栽培のポイントについて、また、各地域における品種の使い分けについてご紹介致します。

2 品種の特性と栽培のポイント

(図2, 表1)

フィーリング125(写真3)

牧草と園芸・平成13年(2001)8月号

目次

第49巻第8号(通巻582号)



キカラシ(十勝地方) 北海道における緑肥栽培

冬の緑を演出する“ウインターオーバーシード”……………表

秋～早春播きハウレンソウ品種のご紹介……………大橋 真信 …… 1

冬作物の簡易播種法による飼料増産……………細谷 肇 …… 4

鹿児島県における緑肥ソルゴーの導入事例……………白山 竜次 …… 8

ナギナタガヤ現地利用事例のご紹介……………辻 剛宏 ……10

ゴルフ場・競技場

ウインターオーバーシードの優良事例ご紹介……………立花 正 ……14

秋播きダイコン優良品種……………表

堆肥発酵機「沃野」……………表



写真1 ホウレンソウの10月播き露地栽培 (徳島県)



写真2 ホウレンソウの2月播きハウス栽培 (千葉県)

特 性

初秋、早春のやや温暖な時期にもバルタン、アールフォーよりじっくりと生育して、葉柄が伸びにくいべと病レース1～4抵抗性品種です。葉形は葉先がはっきりと尖る剣葉で、葉色は極めて濃く、照りがあるため外観が非常にきれいです。草姿は立性～半立性で、葉柄にしなりがあり折れにくい。ため収穫、調整作業が容易です。また、根張りが非常に強いため、過湿などの土壌条件に比較的強い傾向があります。

栽培のポイント

初秋播きや早春播きなどの温暖な時期の栽培では、やや疎植栽培にすると株張りが良い良品を生産できます。ハウス栽培においても同様にやや疎植栽培とし、ハウスは開放ぎみに管理します。

一方、低温期の伸長性はバルタンよりも劣り、葉面の縮みもやや多くなりやすいので、トンネル、べたがけなどの被覆栽培を基本とし、やや密植栽



写真3 フィーリング125

地域(作型)	品種名	8	9	10	11	12	1	2	3	4月
一般地・暖地 (露地栽培被覆資材)	フィーリング125		●	●	●	●	●	●	●	●
	バルタン		●	●	●	●	●	●	●	●
	アールフォー		●	●	●	●	●	●	●	●
府県冷涼地 (ハウス栽培)	フィーリング125	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	バルタン	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	アールフォー	●	●	●	●	●	●	●	●	●
北海道 (ハウス栽培)	フィーリング125	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	アールフォー	●	●	●	●	●	●	●	●	●

図2 各品種の播種期(秋～春播き品種)

表1 各品種の特性比較

品種名	特 性						
	葉形	生育の早さ	抽苔性	草姿	葉色	葉面の縮み	べと病抵抗性
フィーリング125	剣葉	中	やや早抽	立性～半立性	極濃緑	中	レース1～4
バルタン	剣葉	早	やや晩抽	立性	鮮緑色	少	レース1～4
アールフォー	剣葉	早	やや早抽	立性～半立性	濃緑	中	レース1～4

培にします。

バルタン (写真4)

特 性

生育旺盛で耐寒性に優れるべと病レース1～4抵抗性品種です。低温伸長性が極めて高く、葉面の縮みが少ないため、特に厳寒期の栽培に適します。葉色はフィーリング125よりも淡くなりますが、草姿はより立性で収穫時の作業性に優れます。葉柄はアールフォーよりも伸びにくく、抽苔も比較的遅く安定するため、初秋～春にかけて長い期間の播種が可能です。

栽培のポイント

伸長性に優れるため、過度の保温はかえって徒長の原因となるので注意します。被覆資材を用い



写真4 バルタン

る場合は、換気トンネルかべたがけ程度の簡単な被覆とし、被覆期間もやや短めにします。また、1回の播種面積は少なめにし、収穫遅れにならないように注意して下さい。

初秋播きや早春播きも可能ですが、生育が早いいため、疎植栽培を厳守し、特にハウス栽培では換気を十分に行うようにします。

アールフォー（写真5）

特 性

生育旺盛で濃緑・多収となるべと病レース1～4抵抗性品種です。低温伸長性に優れ、秋～冬の低温期にもスムーズに生育し、肉厚で株張りが良く収量性に優れます。草姿は立性～半立性で、葉形はやや葉先が尖り葉幅が広い剣葉種です。葉色はバルタンよりも濃く品質良好ですが、耐寒性はやや劣り、低温期の栽培では葉面の縮みが多くなります。

栽培のポイント

温暖条件では葉柄が伸びやすく、低収の原因となるので播種期を厳守してください。また、バルタン同様に生育が極めて早いいため、1回の播種面積は少なめにし、収穫遅れにならないように注意します。

厳寒期の露地栽培などでは、葉面の縮みが多くなり、品質が低下する場合がありますので、必ずトンネル被覆を行うようにしてください。

3 品種の使い分け

一般地・暖地（露地、被覆資材、ハウス）

9月下旬播き、3月播きのやや温暖期の栽培に



写真5 アールフォー

は、じっくり生育して株張りするフィーリング125が最も適します。

10～2月播きについては、1回の播種面積が大きい場合には、じっくり生育して収穫期幅が長いフィーリング125、小面積を段播きする場合には低温期でもスムーズに生育するバルタン、アールフォーが適します。ただし、11～12月播きの露地栽培については生育期間が厳寒期となるため、耐寒性に優れるバルタンが適します。

冷涼地（ハウス）

8月下旬～9月中旬播種、3月播種では葉柄が伸びにくく、葉色が濃いフィーリング125が最も適します。

9月下旬以降の低温期の栽培では低温伸長性に優れるアールフォー、バルタンが適します。特に降雪地域で、早めに収穫を切り上げたい場合には、フィーリング125を遅播きしすぎないように注意して下さい。

4 おわりに

今回は、当社の秋～早春播きハウレンソウ品種の特性と使い分けについてご紹介しました。ハウレンソウは全国で幅広く栽培されている野菜ですが、連作に伴う土壌条件の悪化や病害の増加など産地が抱える問題も多く、品種、栽培技術に更なる改良が求められます。今後も当社の品種の特性を十分にご理解頂いて、良品を安定生産されることを期待しております。